

富田林市保育所運営事業者選考等委員会 会議録（要旨）

開催日時：平成 25（2013 年）10 月 10 日（木）19：00～21：20

場 所：市役所 2 階 201 会議室

出席者：保育に関して見識を有する委員 2 名

事業予定者の財務及び法務に関して見識を有する委員 2 名

民生委員児童委員協議会から推薦された委員 1 名

保育所の保護者を代表する委員 3 名

事務局 4 名（子育て福祉部長、子育て福祉部次長代理、保育課長、保育課主幹）

会議記録

1. 開 会

事務局：議事に入る前に、本日の会議資料の確認をさせていただく。

本日の会議資料は、応募事業者の審査基準案として事前に送付させていただいた書類審査およびプレゼンテーション・ヒアリング審査の各様式と、本日お配りした今回の募集に関して受け付けた質問とその回答の一覧である。

2. 議事

委員長：それでは、議事に入る。

本日は、応募事業者の審査基準などについて決めていくことになるが、それに先立ち、先般開催された応募予定事業者への説明会の参加状況などについて、事務局より報告をお願いする。

事務局：去る 9 月 17 日に、今回の募集に関する説明会を市役所 401 会議室で開催させていただいた。参加者は、すでに保育所などを運営されている社会福祉法人などが 8 法人、それと個人 1 人の計 9 者であった。

当日は、民間認可保育所設置運営事業者募集要項に基づき、応募資格や募集する保育所の条件などについて、一定の説明をさせていただき、その後、質疑応答の時間を設けた。

また、9 月 17 日から 24 日までの 1 週間、今回の募集に関する質問を電子メールで受け付けた。

寄せられた質問の主な内容としては、本市の待機児童の状況や保育所の立地に関することであった。説明会当日に出た質問と電子メールで受け付けた質問、それに対する回答の一覧は、本日お配りした資料の通りである。

この資料の 8 番目だが、応募者多数の場合の一次選考についての質問があった。応募を締め切った時点で、この委員会で決めていただく必要があると考える。

なお、この一覧は、市のウェブサイトにおいて公開している。

また、説明会の後、新たに社会福祉法人の設立を検討されている方や株式会社からの問い合わせが数件あったが、これらの方が実際に応募されるかどうかは今のところ未知数である。

以上、報告とさせていただきます。

委員長：参加した 8 法人は全て社会福祉法人か。

事務局：1 法人は、幼稚園を運営している学校法人であった。残りの 7 法人は、現に保育所を運営している社会福祉法人と伺っている。

委員長：質問一覧の 10 番目に、調整区域でも保育所の建設は可能かとあるが、この調整区域というのは少し分かりにくいので、簡単に説明していただきたい。

事務局：市には、都市計画というものがあり、開発が比較的自由にできる区域と、開発を抑制する区域が決められている。その開発を抑制する区域が、調整区域ということになる。調整区域内では、基本的に新たな開発は認められていないが、保育所などの公共施設の場合は、条件を整えば建設も可能となる。

ただし、その条件の中には、公道に接していることなどの規定があり、たとえ保育所であっても限られた場所になってくるのではないかと考える。

委員長：それでは、本日の案件である審査基準案について審議したいと思うが、まず事務局より説明をお願いします。

事務局：それでは、審査基準案をご覧ください。

1 の書類審査については、前回の会議での指摘事項を反映させていただき、審査項目と応募書類を連動させるような形で、新たに「左に対応する主な様式・資料」の枠を設け、各項目に該当する様式と資料の番号を記載した。例えば、一番上の「応募の動機・目的に説得力があるか」の項目では、様式 4-1 [1] という形で、様式や資料番号を記載している。なお、この枠を追加することによって、前回の A4 サイズから A3 サイズに用紙を変更させていただいた。

審査項目と評価の着眼点の内容については、前回提案させていただいたものと大きく変更していないが、一番下に総合判断の欄を設け、事業者の基本姿勢の中にあった「総合的に見て保育所を運営するのにふさわしい事業者であるか」の項目を独立させ、各項目の評価では表せない部分や全体的な評価を反映できるような位置付けとさせていただいた。

次に、2 のプレゼンテーション・ヒアリング審査については、若干レイアウトを変更しているが、内容は前回の提案と同じものである。

いずれも事前にお配りしているので、項目ごとの説明については省略させていただく。

なお、配点については、前回の提案から修正しておらず、書類審査が 30 項目の各 5 点、プレゼンテーション・ヒアリング審査が 5 項目の各 10 点で、合計 200 点満点としている。この中で、重点的に配分する項目や、最低基準点を設定するかどうかということも含めて、この後ご審議いただきたい。

以上、説明とさせていただきます。

委員長：それでは、審査基準案について、皆さんからご意見をいただきたい。

委員：審査項目に連動する様式を記載していただいたことで、どの様式に対応しているのか分かったが、実際には応募者の書類、様式を見ながら採点することになると思うので、逆引きもできるように整えていただければありがたい。様式を見ながら、審査基準のどの項目に対応しているのかを分かるようにしていただければ、より見やすいのではないかな。

事務局：審査項目にA-1、B-1というように番号を割り振った上で、様式の横に付箋やインデックスなどで見出しを付けるということで良いか。

各委員：それをお願いする。

委員長：まず、採点方法の確認をさせていただく。

前回の会議で、各委員が独立して採点するのではなく、複数の応募があった場合は、この委員会の中で各項目においてその分野に精通した委員の評価や意見などを聞き、情報交換をしながら、まずは各自で採点する。

それを中間点として、どの委員が何点を付けたか分からないように名前を伏せて一覧表にしたものをもとに、各委員において最終的な採点をする。

1者しか応募がなかった場合は、全ての項目について全員で議論しながら、委員会として点数を付けるということになったと記憶しているが、それで間違いないか。

各委員：その通りである。

委員：確認しておきたいが、書類審査とプレゼンテーション・ヒアリング審査の合計点で、判断するということで良いか。

事務局：それで良い。

委員：書類審査に関しては、中間点を付けて最終的に変更もあり得る。プレゼンについては、同一条件で聞くことになるため、意見調整なく各委員の採点をもって集計するというところで良いか。

委員長：プレゼンも書類審査と同じやり方が望ましいと考える。

委員：プレゼンも意見交換しながら、点数を付け直すということか。

委員長：そのほうが、採点しやすいのではないかな。

委員：私は、その必要はないと考える。書類審査は、書類を再度見ることはできるが、プレゼンは聞き直すことができない。聞き逃したところは別としても、各委員の主観で判断せざるを得ないと思う。

委員長：プレゼンの配点は、全体の4分の1の50点となっている。プレゼンが上手いと、それに流されてしまう可能性もある。どういう展開になるか予想できないので、修正するかどうかは別にして、プレゼンについても一旦中間集計を出したほうが良いと考える。

委員：プレゼンの後、書類審査の点数を変えることもあるのか。

事務局：プレゼンを聞いた結果、書類だけでは分からなかったことが判明したという場合は、点数の変更もあり得ると考える。

委員：プレゼンの後に、書類審査の点数を変えるというのは聞いたことがない。それをする、と、基準が変わってしまうので、私は反対である。

委員長：ヒアリングで事業者に対して質問したとき、実はあの質問にはこういう意図があったということを後から聞けば、採点が変わることも考えられる。

また、例えばアトピー対応の食事をこういう形で提供しているという書類が出てきたとする。他者は、それについてあまり書いていないが、ヒアリングで聞いてみると調理員と保育士の連携が取られていて、食事の管理もきっちりとしておられる場合など、書類だけでは見えてこないものがある。

委員：公平性からいうと、実際のところなかなか質問しにくい。例えば、保育内容のところでもう一段踏み込んで聞きたいと思っても、1者にだけ聞いてしまうと、それによって良さが引き出される可能性があって、聞いていない事業者と差がついてしまう。質問するのであれば、全者に同じことを聞くべきである。

委員長：全者に同じ質問をすることが最適ではあると思うが、プレゼンではその事業者に対して不安を感じる点を聞くことが多い。A者に対する不安と、B者に対する不安は多分異なるので、わざわざ同じ質問をしなくても良いのという場合もある。

委員：書類のところで何か曖昧な部分があって、それを質問したときに上手く答えられたらそれが正しくなってしまって、どちらが本当なのか判断できなくなるのではないかという不安もある。

そのため、書類審査とプレゼンは独立させておいて、合致しないところがある場合には、プレゼンの点数に反映させるというほうが良いと思う。

委員：応募が1者だけのときは、そこに任せて本当に大丈夫かどうかの総合的な判断になるので、書類審査の点数を変えても良いと思う。しかし、複数のときは公平性が優先されるべきと考える。

委員：書類で見た限り、ある部分について少し不安だと感じることは、やはり事業者によって違うと思う。そのため、書類上での不安を埋めるという意味での質問は、個別に違っても良いとして、この事業者にはこういう質問をするということをこの委員会で事前に決めておく。そうすれば、プレゼンでの中間集計も必要ないのではないか。

委員長：それでは、一度整理したい。質問内容については、書類審査を終えた段階でしっかりと議論し、何を聞くのかを明確にしておく。そして、プレゼンの中間集計については実施しないということで良いか。また、プレゼン後に書類審査の点数を修正しないということが良いか。

各委員：それで良い。

委員長：次に、採点基準などについてご意見をいただきたい。

委員：今後、どのように書いて書類を出されるかによって、凄く採点が難しいと思う。

委員長：自由記述の様式が多いので、何をどれくらい書き込んでいるかによって、保育が分かっているかいないか、実際にやっているかいないかが見えてくるのではないか。

委員：書類審査でいうと、各項目5点となっているので、各個人が自分の中で5点満点中の3点をどこにおくかで判断していかないといけないということか。

委員：事業者の運営、財務内容については、私たちが書類や数字を見ても、それがどの点数に値するのかを判断する自信がない。その辺りも全ての委員が採点するということになるのか。

委員：私も同じで、借入金に依存していないかといわれても、どれくらい依存していたらいけないのかということが全く分からない。必要な資金計画を有しているかというのも、どれくらい持っていれば良いのか判断がつかないので、これくらいあれば普通だという目安が分かればと思う。

委員長：やはり、財務資料については■■委員にまず見ていただき、それぞれの事業者について講評していただければありがたい。

委員：それは構わないが、まず1点刻みで採点するのか、0.1点刻みなのかによって、大きく変わってくると思う。例えば、標準点を3点にするとしたときに、最大値はなかなか付けにくいので、良ければ4点、悪ければ2点となる。今回、仮に6者の応募があったとき、どのように差を付けるかが非常に難しくなる。それであれば、0.1点刻みの採点にするのか、もしくは基準点が3点ではなくて、一番良いと思う事業者を5点、一番悪い事業者を0点とするのかなどを先に決める必要がある。

委員長：皆さんのご意見はいかがか。

委員：差を少しでもつけるのか、同点でも良いとするのか、それは審査員が決めるよりも事務局で決めていただいたほうが良いと思う。

事務局：市の内部でも、プロポーザル方式で業者を選定することは多々あるが、その採点の中でも0.1点刻みというやり方は取っていない。あるとしても0.5点刻みとなっている。

委員：0.5点刻みで採点するとなると、それはそれで判断が難しくなると思う。私としては、標準点を3点として、1点刻みで少し悪いところは2点、これは駄目だということところは1点、少し良いところが4点、とても良いところを5点とするほうが採点しやすい。あまり細分化すると、読むときの状態によって多少影響されてしまう恐れがあると思う。

委員長：先ほど、事務局より説明会についての報告の中で、応募者多数の場合の一次選考についてのお話があったが、これについて何かご意見はないか。

委員：一次選考が必要となる応募者数は、何者ぐらいを想定しているか。

事務局：プレゼンの件数が多ければ多いほど、各委員にはご負担をかけることになるが、複数の中からより適切な事業者を選ぶということからすれば、なるべく多くの事業者を議論の対象としていただければありがたいと考える。

委員：何者応募があるのか分からない状況ではあるが、実際のところ5～6者をプレゼンするとなると大変だと思う。

委員：5～6者の場合、書類審査は全て採点するのか。

事務局：応募者が多数の場合であっても、書類審査とは別に審査をし、選別することは想定していない。あまりにも多くの応募があった場合には、書類審査の結果によって、プレゼンに進む事業者を選考していただくこともあり得と考えているため、仮に8～9者の応募があったとしても、全てが書類審査の対象となる。

ただし、募集条件を満たしているかどうかは、事務局で事前に確認させていただく。

委員：募集条件を満たしていない場合に限って、書類審査のテーブルには上がってこないということか。

事務局：その通りである。

委員長：最低基準をどこに設定するか決めないといけない。私の経験では、全体の6割とすることが多い。今回、書類審査は150点満点なので、6割であれば90点以上ということになる。

委員：合計90点以上としても、この項目は何点以上でないと駄目というような基準も必要だと思う。

委員長：確かに、全体で6割以上あったとしても、ある大項目のところが4割しかなければご辞退いただくという設計の仕方もある。

事務局：合計6割ではなく、大項目ごとに6割を超えていなければならないという方法も考えられる。

委員長：全ての項目を6割以上というのは、相当厳しいと思う。全体で6割と設定するのであれば、各項目については5割、全体で7割であれば6割というように、全体よりも少し緩やかに設定する方法が一般的である。

委員：保護者としては、やはり保育内容や職員体制のところが一番気になるところである。

委員：保育内容などは、大事にしてほしい部分ではあるが、書類に上手く書かれたら、捉え方の感覚で凄いい差が出ることも考えられる。職員体制などは、ある程度見て分かる数字もあるので、その辺りは設定できるのではないかと思う。

委員：考え方を具体的に書くようなところは、本当は違うかもしれないが、上手く書くこともできるので、この辺りを最低基準にするのはどうかと思う。しかし、財務内容や保育所の定員、職員配置など、ある程度客観化できる部分は、最低点を設けても良いのではないか。

委員長：項目ごとに最低点を設けるということについてはいかがか。

委員：結局、選ばれるのはトップ1者であるから、最低点がなくても淘汰されるのではないか。ここは人数が少ないとか、人員的におかしいというのは、討議の中で分かってくると思う。討議を重ねた上で採点すれば、選ばれるべくして選ばれるという結果になるのではないか。足切りすることに労力を割くよりも、むしろトップを選ぶことに労力を費やすほうが良いと思う。

委員：客観化できる数字の部分は、ある程度判断できるのではないかとの話もあったが、客観化できる部分は最低の基準を満たしているはずである。それを満たしているから書類審査の対象となっているのに、低い点数を付けるのは、採点する側にとって難しいという気がする。

委員長：それでは、最低基準は全体の6割とし、項目ごとの最低点は設けないということで良いか。

委員：それで良い。

委員：6割を超えたところは、全てプレゼンに進めるとするのか、上位何者までに絞るのか、その辺りを決めておかないといけない。

委 員：実際、6割を切ることはあるか。

委 員：多分ないであろう。

委 員：確かに、書類審査で6割を切るというのは余程のことだと思うので、やはり上位が良いと思う。

委 員：応募が少なければ、6割を超えている全ての事業者とし、あまりにも多い場合には、原則上位3~4者としておけば良いのではないか。

委 員：これは、多数の場合であって、応募が2者以下のときは、また別に考えるということか。

委員長：そのまま組上に乗ってくることになる。ただし、6割以下であればご辞退いただくということになるであろう。

委 員：説明会にたくさん参加されたということで、実際何者ぐらいの応募がありそうか。

事務局：はっきりとは分からないが、問い合わせも含めて感触としては大体4~5者ぐらいではないかと思う。

委 員：1者ということはなさそうなので、複数の場合を想定しておいたほうが良いと思う。

委員長：プレゼンの時間配分は、どれくらいを予定しているか。

事務局：具体的な配分は要項に記載していないが、長くても1者20分ぐらいまでと考える。

委 員：ヒアリングも含めてか。

事務局：10~15分のプレゼンと、5分程度のヒアリングを予定している。

委員長：4者でも2時間はかかるであろう。その後、採点となると普段の会議よりも長時間になる。プレゼンは何時から始める予定か。

事務局：それも明記していないが、この会議と同じ午後7時開始を考えている。

委 員：あまり多いと、採点までプレゼンの印象を覚えておけないと思う。最大3者という感じがする。

委員長：いろいろと計画を立て、場所も探し、書類を揃え、そして自信を持って応募されるのであろうから、土俵に乗せてあげたいという気持ちはある。

委 員：プレゼンの日程はいつか。

事務局：今後の委員会の日程として、10月24日、31日を押さえていただいているので、順調にいけば24日に書類審査、31日にプレゼンと考えているが、書類審査の進み具合によると思われる。

委員長：プレゼンは一日でやりたいと思うが、午後6時頃から開始することは皆さん可能か。

委 員：仕事があるので厳しい。

委 員：保育所に迎えに行く時間なので難しい。

委 員：書類審査のときには、何者から応募があったのか分かるか。

事務局：募集期間は、10月22日の午後5時までとなっているので、その時点で何者応募あったか確定する。

委 員：8者も9者も来れば、当然全てプレゼンに進むということはできないし、その時点で決めてはどうか。

委 員：応募者数によって、審査する前にその場で決めれば良いと思う。

委員：取りあえず、3者か4者ということにしておいて、点差が開くようであれば3者にしてみせようとか、僅差であれば4者にするということも考えられる。

委員長：実際、書類を見てみないと分からないので、取りあえず上位3者か4者ということで良いか。

各委員：それで良い。

委員長：最終評価はいつを予定しているか。

事務局：今の予定では、11月14日と21日を押さえていただいているので、10月31日にプレゼンができれば最終の審査が14日となり、21日に市長報告ということになる。

委員：10月24日に、その場で応募書類が渡されるのか。それとも、事前に配布していただけるのか。

事務局：事前にお渡ししたいと思うが、10月22日に締め切るので最短でも23日になってしまう。

委員：それでは、無理ではないか。2時間か3時間の会議の中で、全部の書類は読めないと思う。

委員：中間集計をするとなると尚更ではないか。一日で書類審査を終えるのは難しい。

委員長：プレゼンを11月14日にするほうが現実的ではないか。他でもあるのは、先に書類を送っていただいて、まず自分で点数を付ける。その上で、この項目は何点という議論をする。

10月24日、25日は在宅審査にしてはどうか。それを、31日の会議までに郵送やEメールで事務局に各自送っておいて、31日に議論をすれば良いのではないか。

各委員：それが良い。

事務局：それでは、10月24日中には各委員に応募書類をお渡しするので、31日の昼頃までに郵送やEメールで採点表を送っていただければ、当日、中間集計として提示できる。

委員：直接市役所に持って行っても良いか。

事務局：もちろん良い。保護者の皆さんは、保育所に預けてもらっても構わない。

委員：財務内容の辺りなど全く分からないが、一応自分で点数を付ければ良いのか。

委員：一度目を通して自分で採点したほうが、先生の意見を聞かるときに分かりやすいのではないか。

委員長：それでは、10月31日は中間点をお示しいただいた中で開始する。そして、情報交換をし、議論をしながら、書類審査の最終結果を出すということで良いか。

各委員：了解した。

委員：10月31日は結構時間がかかると思うので、ヒアリングで質問する項目を各自練っておいて持ち寄れば、時間を短縮できるのではないか。

事務局：ヒアリングの際に質問されることを採点表と一緒に事前に送っていただければ、31日には一覧表にしたものを提示できる。

各委員：それでお願いします。

委員長：もう一つ、同点のときにどうするか。

万が一、書類審査とプレゼンの合計点が同点のときには、例えば保育内容の点数が高いところにするなど、ある項目を比較するという方法も考えられる。

事務局：最終的に同点になったときは、時間がかかってもご議論の中で決めていただかざるを得ないと思う。一定の指標で判断するというのは難しいと思う。

委員長：委員の多数決を取るのでもなく、ある項目で判断するのでもなく、話し合いで決めるという提案が事務局よりあったが、皆さんのご意見をいただきたい。

委員：それも難しいのではないかと。最高点の同点が2者で甲乙付け難いことから、抽選というのも一つの方法だと思う。

委員：どちらも凄く良いところであれば、事業所の所在地が近いほうが良いとか、また別の観点で選ぶ方法もあると思うし、本当に同列であれば抽選でも良いとも思う。

委員：私たちは、1者を選ぶために集まっているのだから、そこを運に任すのは間違っていると思う。

委員：両方の事業者が保育所を運営しているところであれば、見に行けば良いと思う。子どもたちの姿を見れば、どういう保育所か分かるのではないかと。ここで話し合うよりも、実際に見て議論したほうが良いと思う。

事務局：できるのであればお願いしたいが、まだ応募がない中で、保育所を運営しているところかどうか分からない。最終的に残ったのが、保育所を運営している事業者で、なおかつ近いところでないとい見に行くことはできないので、今ここで決めるのは難しいと思う。

委員長：評価の前提として、審査項目、評価の着眼点の内容はこれで良いか。

委員：書類審査の「事業者の運営、財務内容」のところでは、まず「外部監査・第三者評価とそれに対する対応は適切であるか」という項目についてだが、保育所は監査を受けている。会社法監査の対象会社も受けている。しかし、一般の会社はほとんど受けていない。そうすると、申請者によって資料が出るところと出ないところがあるため、調整が必要ではないか。

それと、「事業者の運営は借入金に大きく依存していないか」という項目について、このような箱物ビジネスをされているところは、固定資産を持たなくては行けないので、借入金に依存している。逆に、依存していないほうがあり得ないので、これで良いのかと思う。

委員長：私の理解が間違っていれば、訂正していただきたい。まず、この外部監査については、保育所に関していえば行政が監査しており、これが外部監査に匹敵する。幼稚園については、外部監査というより自主点検のような形で行っている。

委員：幼稚園は学校監査なので、あくまで任意である。外部監査となると、この外部のチェックは入っていないと思うので、税理士の印鑑があるのは当然としても申告書だけになってしまう。そのため、資料があるところとないところに分かれる可能性が非常に高い。

委員長：そもそも、今回新しく法人を設立される場所は資料がない。第三者評価についても同様である。前提として、場合によっては0点になるということも想定している。それで良いのかどうかという問題はある。

借入金に依存していないかというところは、財務資料から見て、これは相当厳しい状態にあるという辺りの判断を■■委員にぜひしていただきたい。

委員：実際、借入しなければ大富豪的な資産家以外は運営できないことになる。会社運営をしていて固定資産を購入する場合、通常は資本で賄うか、長期借入金で賄うかという話になるので、保育所を建てる時に自前ですということは、計画上あり得ないと思う。当然、借入金という話になるので、依存していないかといわれれば、基本的に依存している。運転資金については、通常の保育所収入で回していくというのにはあり得る話だが、ここで借入金に依存しているかどうかを重要視すると点数が付かないと思う。

それと、「事業者の役員構成等は公平であるか」の基準を聞かれても分からない。例えば、同族は駄目なのか、もしくは反社会的勢力なのか。反社会的勢力は、最初から禁止していると思う。それであれば、この公正とは何を指すのか分からない。これに関しても見直していただきたい。

委員長：社会福祉法人を想定すると、まず理事、監事は何名以上、監査役は必ず福祉事業を監査できるもの、同族については、例えば園長の息子一人なら良いが、もう一人入っているといけないなどの規定がある。その点をクリアしているかどうかという話になる。現在、保育所を運営していない場合は、保育に造詣の深い人が理事の中に何人いるかという話になる。

委員：株式会社の場合、一人役員が会社法上認められている。

事務局：会社法上認められているが、保育所の認可にあたっては、実務を担当する幹部職員が保育所などにおいて2年以上勤務した経験を有する者などの規定がある。

委員：それから、資金計画の事業計画がほしい。要は、予定している児童数に対して、雇用計画や設備計画が当然あるので、数字面でどういう運営計画なのかを見たい。

委員長：予算案などは、提出書類に含まれているか。

事務局：書類は出していただくことになっている。

委員：将来のことは分からないが、3人雇うとなっているのに1人分しか計上していない場合など、雇用する職員に見合う給料が計上されているかを他の項目との数字の整合性を見る必要がある。事業計画に対する点数がほしいので、役員構成の代わりに事業計画の妥当性を入れてもらえないか。

「新たな保育園運営に必要な資金計画を有しているか」は、5年間分の資金繰りが分かる収支予算書を出していただくので判断できる。

「事業者の運営は借入金に大きく依存していないか」と「外部監査・第三者評価とそれに対する対応は適切であるか」については、やはり違う内容にしていきたい。

委員長：確かにそうだが、外部監査・第三者評価の項目は、どこかに残しておくべきだと思う。法人の事業に対する外部の監査や評価に対応しているかどうかということは、とても大事な評価項目となる。

委員：株式会社の場合、その評価自体がない。

委員：新規参入者も監査がないわけだから、マイナス点は付けずに、監査がないところは3点にして、受けていて評価できるところは4点にしてはどうか。

委員：平等に審査する上で、新規参入者が最初から低い点数というのは納得できない。それであれば、審査の前に公表すべきである。

委員：既存法人でも第三者評価を受けていないところがあって、そこに差をつけたいのではないか。

事務局：それもあるが、公的な監査で指摘されたことに対して、きっちりと改善されているかどうかは監査資料の中に出てくるので、その辺りを評価していただきたいと考えている。監査は受けているが、指摘に対して何も改善していないということもあり得るので、その場合は低い点数になると考える。

委員長：監査を受けていても必ずプラスになるかどうか分からない。実際に、保育所を運営しているところがほとんどであれば、この項目はもの凄く大事だと思う。

事務局：確かにその辺りを見たいという思いだが、全く受けていない応募者の扱いについては悩ましいところである。

委員：総合判断の加点事由という扱いにし、総合判断のところで評価してはどうか。

委員：受けているところと受けていないところがある中では、そのほうが良いのではないかと思う。

委員：役員構成はどうするのか。

委員長：これについても総合判断に含め、点数を10点にするということではいかがか。

各委員：それで良い。

委員：借入金に大きく依存していないかよりも、財政の健全性が重要だと思う。いろんな指標を見たときに、例えば大きな繰越欠損金がたくさんあって、過去に大きな赤字を出し続けているかなど、総合的な財政状態を見る必要がある。赤字は出しているけれども、それは何か特別な要因があって、一つのビジネスをやめるために大きな特別損失が出ているのか、それとも通常の営業で出したのかによっても違って来る。それであれば、適正な財務内容かということと、経営成績が妥当かというような辺りを独立して項目に入れるほうが良いと考える。

事務局：具体的な文言としては、財政状態の健全性と経営成績の安定性ということで良いか。

委員：それで良い。

事務局：今のご議論を整理させていただくと、役員構成、借入金、外部監査、これらを項目から外して、財政の健全性と経営成績の安定性を盛り込む。その代わりに評価の着眼点を一つ減らして、総合判断のところで役員構成や外部監査のことを含めながら配点を5点から10点にするということでは良いか。

各委員：それで良い。

委員長：他にご意見はないか。

委員：提出書類記載要領の中に、富田林市の保育士配置基準は記載されているが、障がい児の加配基準については触れていないので、具体的に分かる資料がほしい。

委員：保育室の一人当たりの面積の基準が分かる資料もほしい。採点のときの判断資料として、今の富田林市の基準が分かればありがたい。

事務局：了解した。事前を送付させていただく。

委員長：施設設備計画の中に、「弾力的な運営も可能な施設計画か」とあるがこの弾力的などは何を指すのか。

事務局：保育所の基準の中に、年齢に応じた定員、児童一人当たりに対する部屋の広さなどが規定されている。その基準を満たした上で、定員を超えて受け入れることができるようになっており、当初の計画から面積、設備に余裕がなければ受け入れはできない。例えば、100人の定員であっても余裕があれば、110人受け入れることができるということになってくる。これを弾力的な運営と位置付けており、現在、本市では年度途中での待機児童が発生している状況なので、弾力的に受け入れていただければ、その数が少しでも減ることになる。

委員：プラス方向での定員の弾力化に対応できる設備を持っているかどうかということで良いか。

事務局：その通りである。

委員長：次に、プレゼンテーション・ヒアリング審査項目の内容について、皆さんのご意見をいただきたい。

委員：プレゼンには誰が来て、何を話されるのか。

委員長：理事長、園長、理事が来られ、園の成り立ちや熱意を述べられる場合もあれば、パソコンを使ってされる場合もある。

事務局：今回は、機器の使用を認めていないので口頭でのプレゼンとなる。

委員：話す内容は特に何も決まっておらず、各事業者がそれぞれ自由に話すことを聞き取って、この用紙に採点するのか。

委員：応募書類を順に説明されるのか。

事務局：これを全部説明するとすると、相当時間がかかる。

委員：「プレゼンの内容は、書類の記載内容と合致しているか」というのは、どこで判断するのか。

委員長：大事な項目ではあるが、書類の記載内容と合致しているかの項目は必要ないと思う。合致していて当然である。

委員：このような書類を専門につくる業者もあるので、稀に実態と異なることもあり得る。

委員長：しかし、書類の記載内容を守るということは大原則であると考えて。これが、嘘ということ自体あり得ない。

委員：保護者の立場から、ここは配点を高くしてほしいという項目はないか。

委員：保護者としては、保育にあたる職員が適切に配置されているか、園庭でどれくらい遊ばせようとしているか、夕方もしっかりと遊ばせてくれるか、テレビばかり見せていないか、散歩によく出かけるか、園行事の取り組みはどんなふうに行っているのかなど、その辺りは一番気になる場所である。

事務局：この配点はあくまで事務局案なので、ご検討いただきたい。

委員：このテーマで、プレゼンしていただくということは決まっているか。

事務局：特に決めていない。

委員：せめて一言でも、このテーマについて話していただくということを決めておかないと、一方的に事業者の概要ばかり説明されても採点のしようがない。

事務局：それでは、事前にお題を応募者に提示しておき、それについてプレゼンをしていただくということで良いか。

各委員：それで良い。

委員長：他のプレゼンを聞いていても、やはり子どもへの眼差しや、保護者の意見を大事にされるかというところが見えてくる。保育をどう考えているか、保護者とどのように付き合っていくのかということが見えてくる。

委員：総合判断の項目がほしい。この事業者に任せてみたいというような、総合的に見て1者選ぶならここだというような裁量点があっても良いと思う。

委員長：「保育所を運営する社会的な使命感・熱意を感じられるか」の項目は、判断が難しいのでこれを外してはどうか。

それと、「将来の明確なビジョンを持っているか。実践しようとしている保育内容に共感できるか」は、二つの内容が一緒に入っているので、変えたほうが良いと思う。

事務局：それでは、実践しようとしている保育内容に共感できるかの部分は、先ほどの書類の記載内容と合致しているかという部分と置き換えるということで良いか。

委員長：使命感や熱意というのは、保育内容に出てきそうなので、これを削って総合判断を入れてはどうか。

各委員：それで良い。

委員長：それでは、事務局で本日の審議内容を整理し、各委員に送っていただきたい。

事務局：了解した。

委員長：事業者に対する質問とお題を、10月31日に一から議論するとなると時間がかかるので、事前に事務局に届けていただきたい。

事務局：10月24日までに送る応募書類に、質問項目の記載用紙を同封するので、採点表と一緒に事務局へ届けていただければ、31日の会議には各委員の意見をまとめたものを提示できると考える。

委員長：そういう形で良いか。

各委員：それで良い。

委員長：それでは、本日の議事については以上であるが、他に何かご意見はないか。

各委員：特にない。

事務局：最後に部長よりご挨拶申し上げます。

(部長挨拶)

3. 閉会